

O-3 その他教育施設の実態・課題

■ 施設概要

その他教育施設を 2 施設保有しています。そのうち旧忠生第四小の廃校舎を教育センターとして教育相談・適応指導教室の事業や教員研修などに利用しています。旧忠生第六小は活用方策の検討中ですが、暫定的に主に行政用の倉庫として利用されています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	
忠生	◎	教育センター	6,498	1972	教育センタークラブハウス 旧忠生第四小学校
本町田 薬師池		旧忠生第六小学校	6,916	1968	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 教育センターは比較的交通便利性の高い場所に立地している。
- 〔建物〕 ・ 教育センターは築 44 年が経過している。旧忠生第六小学校は耐震改修が未実施である。
- 〔機能〕 ・ 教育センターはクラブハウス、防災備蓄倉庫などを複合化している。
- 〔利用〕 ・ 一部の部屋は稼働率が高くないため、部屋同士の共用化が可能である。
- 〔運営〕 ・ 教育センターは市の直営である。
- 〔コスト〕 ・ 教育センター事業にかかる年間費用は 8 億円を超えている。

■ 4 つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 法律による設置義務は無い。教育の質の維持や不登校児童の支援については行政関与の必要性が高い。

設置目的との整合性

- ・ 設置目的と整合している。

利用状況の妥当性

- ・ 同じ機能の部屋が異なった名目で用意されていたり、稼働率が低く、必要以上に空間を使用している。

施設の代替性

- ・ 民間などによる代替性はないが、会議室などは他の公共施設での代替は可能。

〔現状・課題のまとめ〕

教育センターは教育の質の維持や不登校児童の支援を行う行政関与の必要性が高い施設ですが、廃校を1校そのまま利用しているため、用途に対して部屋が広すぎたり、稼働率の低い部屋がある等スペースの使い方が非効率になっています。また、研修室や会議室、科学センターなどは他の公共施設での代替が可能です。施設の大規模改修や建替えの際には必要な施設規模の検討が課題です。

旧忠生第六小学校は木曾山崎団地地区まちづくり構想において健康増進関連拠点としての活用が位置付けられており、民間活力による施設活用が課題となっています。一方で、耐震改修が未実施なため、全ての棟を活用しようとすると多額の費用が必要になります。

▷ 0-3 その他教育施設の今後の方向性

■ 今後の方向性

複・多

PP

活用

市有財産として積極的な活用を図ることで、新たなサービス機能を提供する場や収入源とする。